



一般社団法人（非営利）アジア自立支援機構（GIAPSA）

2020 年度事業計画書

（2020 年 4 月 1 日—2021 年 3 月 31 日）

2020年度の事業計画

2020年度(2020年4月1日から2021年3月31日まで)は基本的には2019年度から継続する4つの分野を含めた以下の5つの優先事業とその他の活動を中心に行う予定である。2020年度の事業資金は主として寄付金により捻出する事とするが、同時に官民の基金やCSRなどに積極的に応募し外部資金獲得に努力する。又、アジア諸国を含めた新型コロナウイルスの蔓延や終息の見通しが不透明な事や、第2波や第3襲来の可能性があり、それにより当法人の活動に大きな制約がもたらされるであろうことを念頭に、流動性を持つて対応することとする。

2020年度事業予算

➤ 1. タイ北部メーチャンタイ村のコーヒーを中心とした 加工技術向上と山岳民族の生活向上支援		2,322,000	円
➤ 2. カンボジア小規模農民グループへの自活支援		700,000	円
➤ 3. バングラデシュにおける乳用ヤギの普及	未定	0	円
➤ 4. タイ南部サゴヤシ林の保全と有効利用		197,000	円
➤ 5. グローバル人材育成支援		273,000	円
➤ 6. その他の活動	未定	0	円

支出(予定)の合計		3,492,000	円
-----------	--	-----------	---

収入予定	前年度からの繰越金	759,879	円
	社員からの年会費	40,000	円
	寄付金	2,692,121	円

収入(予定)の合計	3,492,000	円
-----------	-----------	---

1. タイ北部メーチャンタイ村における全村民をあげた自助努力によるコーヒーを中心とした加工技術向上と山岳民族の生活向上支援 (GIAPSA/2019/01)

2019年8月に開始したこの事業は予定どおり順調に進展し、当初予定していた3年間の事業計画の約8割が最初の一年で完了した。農産物加工場の建設と脱穀機の設置に

より生豆（green beans）の加工製造が可能になり、組合は使用する組合員から1キロの豆の脱穀につき3パーツの使用料をチャージし組合の回転資金とした。その中から1キロ当たり1パーツのオペレーターサービス料を人件費として支払った。2020年3月から5月までに18、839キロ生豆がこの脱穀により加工生産され約3万6000パーツの組合の共同収入があった。次の段階として、農産物加工場を村民たちの共有財産として有効に管理運営する体制を確立し、焙煎機を購入してメーチャントイブランドのコーヒー豆を製造し、ブランドの確立を進めながら国内外に販売ルートを開拓する予定である。又、アボカドの木を植樹したりアプリコットや他の果物を加工したりすることにより、コーヒー以外の収入の道を切り開く予定である。具体的には以下の活動を計画している。

- 改良種のアボカドの苗木の購入と植樹 @TB 150 X 780本 = TB 117,000
2020年7月末から8月初め（ボランティアアツワーと組み合わせる）
- コーヒー焙煎機（小型焙煎能力5キロ）の購入・設置と訓練 TB 500,000
2020年6-7月、 コーヒーの共同加工とブランド化の推進
- アプリコットや他の果実の加工（ドライフルーツなど）技術訓練 TB 10,000
2020年10-11月、村の女性を対象にする。時期は要再確認
- 事業の経済効果を調べるための Base Line Survey の実施 TB 20,000
2020年10-11月、明治大学、SWU等との協力の可能性を探る
- バンコクにコーヒーの直売店を開設或いは委託するための事前調査 n/a
2020年6-12月、将来、コーヒーのブランド化を促進するため
バンコクに直営コーヒーショップ開設の可能性を探る
- タイ国内航空賃、レンタカー料金などの国内交通費@6000 x 4 TB 24,000
現地視察や会議への参加、等の経費
- その他の経費 TB 10,000

小計	TB 681,000
日本円換算 (1 パーツ=3.41 円)	(2,322,000 円)

2. カンボジア北部（シナムリープ）の小規模農民グループへの自活向上支援 (GIAPSA/2020/01)

2019年6月にプロジェクト事前調査が始まったが、自発的にグループを形成し自助努力（無利息のローンの返済を含めて）により農業生産をスケールアップしたいという農民グループがなかなか見つからず、最終的には Tbengkanglech Chokchey 農業組合の

養鶏グループ（組合員6人）に決まった。この事業はパイロット事業なので受益グループの規模は大きな問題ではないと考えられる。プロジェクト予算は

➤ 卵や鶏肉生産用の鶏のひな、飼料、鶏舎建設資材、孵化機、等 US\$ 6,400

日本円換算 (1ドル=108.65円) (700,000円)

。事業の詳細は以下であり、2020年7月1日に開始される予定である。

Project Document

Project Symbol:	GIASPA/2020/01
Project title:	Improving the livelihood of poor rural farmers through the promotion of community-based self-help economic activities in Northern Cambodia (ILPORF)
Project Venue:	Tbeng Lech Village, Banteay Srey District, Siem Reap province, Kingdom of Cambodia
Implementing Group:	Poultry Group of the Tbengkanglech Chokchey Agric. Cooperative (PG-TCAC)
Beneficiaries:	members of the PG-TCAC in Tbeng Lech
Village Starting Date:	1 July 2020
Duration:	2 years
Implementing partner:	Farmer and Nature Net Association (FNN)
Donor Agency:	General Incorporated Association for the Promotion of Self-reliance in Asia (GIAPSA)
Supporting Agency:	CamboDHRRA and AsiaDHRRA
Total Budget:	US dollars 6,400 (donor)

Summary

Cambodia has undergone a significant transition, reaching lower middle-income status in 2015 and heading to attain upper middle-income status by 2030. According to official estimates, the poverty rate in 2014 was 13.5% compared to 47.8% in 2007. However, many of them stand just above poverty line and vulnerable to falling back into poverty when exposed to economic and other external shocks such as new corona virus pandemics. In Cambodia, about 90% of the poor live in the rural areas (World Bank) and majority of them are engaged directly or indirectly in agriculture.

Many poor provinces in the country are located in northern Cambodia. Siem Reap Province is one of them ranked at the 9th poor province with the poverty rate of 21.3% (MRD 2011).

The project is designed to serve as a pilot intervention and is aimed at to assist a group of poor poultry farmers in Tbeng Lech Village, Banteay Srey District of Siem Reap Province, with a provision of agricultural inputs on cost recovery basis, who are willing to improve their agricultural production and enhance their income and livelihoods through participatory self-help efforts,. At the same time, the project is also aiming to promote supporting capacity of the Farmer and Nature Net Association (FNN) and CamboDHRRA which have been helping rural communities, and creating a sustainable rural participatory mechanism for self-reliance.

1. Long-term Objective

Long-term objective of the project is to assist self-help efforts of poor rural communities to enable them to improve living conditions and attain sustainable livelihoods.

2. Immediate Objective

The immediate objective of the project is to assist self-formed poor poultry farmer group in scaling up their farming activities and enhance income on sustainable basis by providing agricultural inputs on loan and building their technical and self-help capacity.

3. Expected Outputs

- 3.1. A well-managed and self-motivated beneficiary group (Poultry Group) which is capable in developing production plan, conduct cost benefit analysis and monitor group activities, utilizing the inputs provided by the project effectively and reimburse the cost (to FNN) without defaults as per the repayment schedule;
- 3.2. Increased annual income of each beneficiary by 50% through sustainably increased production and enhanced marketing skills;
- 3.3. A Revolving Fund is established and effectively utilized by FNN for the allocation to new beneficiary group (s) based on the roles and procedures (to be prepared by FNN and agreed upon by the Project Steering Committee) governing the selection of beneficiaries and reutilization of the revolving fund

3. バングラデシュ北部における乳用ヤギの普及による小規模農民グループ支援事業

この事業は貧しいバングラデシュ北部地域において、村民（特に女性）たちの収入の増加や栄養の改善を目指して、インドなどから乳用のミルクの生産量の高い品種のヤギを購入し農民達にローンで配分し、それに伴う生産技術の伝搬や訓練、ミルクの販売や加工技術の伝搬などを行おうというものである。昨年度、タンガイル地域のNGOのSSSに進言し、支援する方向で話を進めたが、SSSは独自の財源で既にこの事業を始めたとの情報がある。こちらの支援なしで事業が行われていれば歓迎すべきことである。今後、SSSの情報の確認と共に、他の地域、特に一般社団法人シェア・ザ・プラネットが活動した経験のあるシュレット地方の北東のホビゴンジなどを対象に、事業の可能性を探る予定である。バングラデシュには2020年度9月か10月頃に一般社団法人シェア・ザ・プラネットの技術顧問として訪問する予定で、その時にでも具体的な可能性が話し合われることを期待する。

4. タイ南部のサゴヤシ林の保全と有効利用

2019年度はナコンシタマラート県の関連する大学の協力のもと、1000m²のサゴヤシ林造成用の試験圃場を農民から提供され、2020年1月から6月の期間に農地の整備や植林用の穴堀を農民に委託して実施した。基本的には1000m²の農地に3メートル間隔でサゴヤシの苗木の植林を行い、総計で120本の苗木を植える予定である。苗木は一本120バーツ（輸送料を含む）で購入し、2020年6-7月の雨季に植林する予定である。それと並行して、ナコンシタマラート地域やトラング地域のサゴヤシの栽培（特に葉による屋根材生産用として）の現状調査と農民の収入に及ぼす経済的分析を行う必要性があり、これば将来baseline survey として役に立つと思われる。

以上にもとずき、2020年度に支出予定の予算は以下である。

➤ サゴヤシ苗木購入費用	@TB 120 x120本 =	14,400	バーツ
➤ 科学肥料 1回 50kgバック	@TB 1,100 x 3バック (1年)	3,300	バーツ
➤ サゴヤシ調査と経済分析	ナコンシタマラート地区 (委託)	20,000	バーツ
➤ サゴヤシ調査と経済分析	トラング地域 (委託)	20,000	バーツ
小計		57,700	バーツ

日本円換算 (1バーツ=3.41円)

(197,000円)

5. グローバル人材育成支援

若者や社会人に対するグローバル人材育成支援は当法人の中心課題の一つであり、昨年度まで”その他の活動“として扱われてきたが、本年度から独立した事業の一つとして扱うこととした。具体的には以下である。

➤ アボカド植林（メーチャンタイ村）ボランティアツアー費用 7月末8月初旬、20名予定。現地交通費、民泊2泊宿泊費など	40,000	バーツ
➤ コーヒー豆摘み取りボランティアツアー費用 2021年1月中旬、20名予定。現地交通費、民泊2泊費用等	40,000	バーツ
➤ タイ国立シーナカリンウィロート大学におけるSDGs、貧困、格差や食料問題等に関する講義（2020年8月半ばから2021年1月まで毎週3時間授業）		
➤ 国内外の大学や国際会議等における講演など（現在未定）		
小計	80,000	バーツ
日本円換算（1バーツ=3.41円）	(273,000	円)

6. その他の活動

上記の活動以外に、以下の活動を行う予定である。

- 国際NGOや政府機関などに対する技術アドバイス、
- マスコミやメディアを通じた啓蒙活動（新聞のコラムニストとして毎月執筆中）
- 農業や食料安全保障等に関する国際会議への参加
- 明治大学や筑波大学、その他の大学に対する支援活動
- 新しいプロジェクトの発掘調査、事前調査など
- 新しい事業案の作成と外部基金やCSR等への応募

7. 2020年度事業予算

➤ 1. タイ北部メーチャンタイ村のコーヒーを中心とした 加工技術向上と山岳民族の生活向上支援		2,322,000	円
➤ 2. カンボジア小規模農民グループへの自活支援		700,000	円
➤ 3. バングラデシュにおける乳用ヤギの普及	未定	0	円
➤ 4. タイ南部サゴヤシ林の保全と有効利用		197,000	円
➤ 5. グローバル人材育成支援		273,000	円
➤ 6. その他の活動	未定	0	円
<hr/>			
計		3,492,000	円

8. 2020年度の収入の予定

収入予定	前年度からの繰越金	759,879	円
	社員からの年会費	40,000	円
	寄付金	2,692,121	円
<hr/>			
	収入（予定）の合計	3,492,000	円